

# わらい 団地

「わらい」を通して、住民と地域の人々が自然に交流し、笑顔が溢れる場を創出。持続可能な地域コミュニティの形成へ

「団地」という住まいは、かつて近所同士との付き合いが当たり前だった。

煩わしさとあたたかさの両方を持ち、プライバシーとコミュニティの丁度良い空間を持っている。

しかし、住む人がプライバシー重視社会になってしまい、建てる人が合理的に施設を計画し、「直進する」建築開発として、最大限の容積、収益を求めている。これらによって、隣人同士や地域コミュニティの関係性が希薄化しているのではないかと考えた。

その結果、共助の意識が低下し、緊急時の相互支援が困難な状況が生じている。

本設計は、「わらい」のある30戸の集合住宅を提案する。



## わ

「わ：輪」とは、**円形にした建物**であることから、**回避動線の確保**ができる。あえて入り口が分からない空間を備えることで、**どこからでも人が入り混じる場所**を形成した。これらをつなげる場所によって、より多くの輪の形を目指した建築理論である。

「ら：笑」とは、住民と地域の人々を笑顔を与えるような建築計画として、

- ① 広場で元気よく遊ぶ子供たち、
- ② 楽しそうに走り回っている子どもたちを見守る大人、
- ③ 喫茶店で満喫する地域周辺の人、
- ④ 休憩所で会話し、癒せる高齢者たち、
- ⑤ 共有空間で交流して、思い出を作る若者たちの場を形成した。

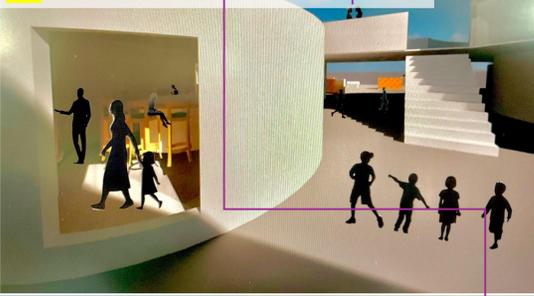
## ら

## い

「い：来」とは、**子どもたちを中心に将来継続的（継続性のある）に再訪したくなるような魅力的な空間**を常に提供する。

住民や地域の子もたち同士が交流し、楽しく遊べて、また遊びに来る。子ども時代の記憶に残り、思い出との共存として、大人になった自分が住みたくなる。地域のおばあちゃんが子どもとの触れ合いを楽しみ、**「来たくなる」**ような意味を備えている。

③ 喫茶店で満喫する地域周辺の人々



④ 休憩所でくつろぐ高齢者たち



広場で元気よく遊んでいる子どもたちを見守る大人たち ①、②



⑤ 共有空間で会話する若者たち

① 子どもたちが動き回る様子

